

令和2年度授業改善推進プラン【4年生】

教科	児童の課題	具体的な改善のための方策
国語	<p>△漢字の学習に苦手意識のある児童が多い。</p> <p>△感想を記述したり、自分の考えや思いを文章で表現したりすることを苦手としている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストを実施し、習熟を確実にしていく。</li> <li>・作文指導の中で、書き方の手順を確認するだけでなく、自分なりの考えや思いを文章の中に組み入れられるような書き方を児童に示す。</li> <li>・文章を書いた後は必ず読み返し、間違いを直す指導に粘り強く取り組む。</li> </ul>
社会	<p>△学習した内容から、次にどんなことが起こるか、さらにどんなことが起こりうるか、推論する力が充分には育っていない。</p> <p>△問題解決する場面で予想を発表できる児童が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ある事象から推論する場面で児童が発表した時には、「どうしてそう考えたのか？」と教師が児童に理由や因果関係を聞くようにし、児童が根拠をもとに発表することができるように繰り返し指導する。</li> <li>・ICT 機器の活用や映像資料などを活用し、実生活による体験から予想することができるようにする。</li> </ul>
算数	<p>△問題文を読んで、どういう場面なのか、何を答えなければいけないのか、理解できない児童が多い。</p> <p>△答えを導き出した方法や、正しいと考える根拠を、すすんで発表できる児童もいるが、躊躇する児童も多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物の操作や ICT 機器の活用により問題の場면을分かりやすく提示し、児童の理解を図る。</li> <li>・考えるための手立てである式、言葉、図、表などを活用して自分の考えをもてるようにさせる。そして、全体の前で発表することができた児童を褒め、発表することに対して意欲的になるようにする。</li> </ul>
理科	<p>△前に学習したこと等と比較し、考えをまとめる力が弱い。</p> <p>△積極的に実験の予想を発表できる児童が少ない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの学習で学んだことを具体的に提示する。考えをまとめることに課題のある児童は、まとめの文の見本を渡し真似をするところから始める。</li> <li>・既習内容を活用する場面を増やし、現象の要因や規則性を推論して解決していく力を身に付けられるようにする。</li> </ul>
音楽	<p>△音楽づくりの学習に必要な、音符の長さの理解やリズムうちが定着していない児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音符カードやリズムカードを使って、音符の長さについての理解を深めたり、拍にのってリズム打ちをしたりする。</li> </ul>
図工	<p>△絵の具の扱いなど既習事項を活かして工夫することが弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前学年までの材料や用具についての経験や技能を生かして表すなど、既習事項を生かした指導を繰り返し行う。</li> </ul>
体育	<p>△体育が好きな児童が多く意欲的に取り組むが、苦手なことには、諦めてしまったり、練習を積み重ねようと思わない児童もいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の実態に応じた課題を明確に設定し、問題解決的な学習を取り入れて運動のコツを理解させ、練習することが楽しいと思うような場の工夫をする。</li> </ul>